

和田城跡（和田砦跡）

戦国時代（1467-1615）、滋賀県甲賀地域の忍者たちは、家族を守り、村を防衛するために砦を築きました。この地域の険しい山々や谷に約 180 か所の砦の跡が確認されています。これらの砦は通常、土塁で囲まれた土塁と乾燥した堀を備えた簡素な構造をしていました。

1980 年代、研究者たちはこの地域の砦を特定するための調査を開始しました、忍者がどのようにして自らの共同体を守っていたかに関する知識を広める一助となりました。彼らは伝説として伝わってきた情報を組み合わせ、土塁を調査し測量を行い、地形の地図を作成しました。ほとんどの砦跡は私有地にあり、実際の構造物としてはほとんど残っていません。それでも、和田砦跡を訪れることで、忍者たちの生活において砦が果たした役割をある程度理解することができます。ただし、この場所は見つけにくいいため、訪れる際には甲賀流リアル忍者館の観光案内所で道案内を受けることをお勧めします。

戦国時代、甲賀では大名の権力がほとんど及ばず、当時としては珍しいことでした。地域に権力を持つ領主はおらず、地元の武士と忍者家系が協力して地域を治めていました。有力な地元の忍者家系は、「同名中」と呼ばれる血縁や領土的なつながりに基づくグループを形

成し、自律的な地域統治の仕組みに従っていました。戦国時代の後期には、これらの同名
中が「甲賀郡中惣」を設立し、この自己統治組織と地域の集団防衛戦略が安定を維持し、
強力な支配者の台頭を防ぐのに重要な役割を果たしました。

忍者が作った砦は、侵入者を監視できるような山頂や谷の最も奥の有利な地点に建てられ
ました。和田砦は、和田谷の最も奥にある丘の上に建設され、周辺地域を見渡すことができ
ました。主郭の各辺は 50 メートルで、土塁に囲まれ、その一部は高さ 7 メートルに達していた
とされています。

谷にはかつて 7 つの砦があり、すべてが有利な地点に位置していました。和田谷に侵入した
者は常に監視され、怪しい動きがあれば攻撃が開始され、侵入者は閉じ込められることとなり
ました。

和田家は戦国時代に和田地域に住んでおり、谷に砦を築きました。彼らは、近江南部
(現在の甲賀地域) を支配していた六角家の家臣でした。和田家の中でも特に著名な和
田惟政 (1536-1571) は、足利将軍家 (1336-1573) と深く関わりを持っていまし
た。1565 年、彼は暗殺された将軍足利義輝の弟である足利義昭を救出し、和田の自邸に
匿いました。その後、和田は有力な戦国大名織田信長 (1534-1582) を支持し、他の

甲賀流忍者たちを説得して信長を支援するよう促しました。信長は安定した政府を復活させ、日本の地域統一の条件を整える上で重要な役割を果たしました。